



■遠見遮断

集落の外から内部の様子が分からないように、入口でわざと鉤型に曲げています。中世の名残りで、検地絵図には、3ヶ所が描かれています。現在残っているのは、北西の1ヶ所のみです。

■高札場

江戸時代には、幕府の最も重要な法令を木の板（高札）に書いて掲げることが義務付けられていました。村や町には必ず1ヶ所設けられており、御所まちの高札場は、北の木戸の内側にあったと伝えられています。現在の高札場は、平成20年に国の「日本風景街道」事業の一環として、ほぼ同所に復元されました。

■太神宮

文政13（1830）年の「おかげ参り」のとき、御所まち界隈では、盛大な施行が行われました。その後、祀られたのが「太神宮」です。毎年6月16日には太神宮祭が執り行われ、この日に柿の葉寿司（鯖寿司）を食べたり、衣更えをする風習があります。



■背割り下水と環濠



西御所は環濠集落として、東御所は寺内町として、ともに16世紀中頃又はそれ以前に成立したと考えられます。関ヶ原の合戦後当地を支配した桑山元晴が、環濠内の道路・背割り下水等の整備を行い、寛保2年の検地絵図にある町並みができたと考えられます。背割り下水と環濠は、ほとんど検地絵図のとおりに現存しており、平成20年度に国の「循環のみち下水道賞」を受賞しました。



■瓦の刻印と意匠

御所まちの東南約2kmの所にある「柏原」は、良質の粘土がでることから瓦の産地でした。御所まちの古い瓦は、ほとんどここで製作されたもので、それぞれに業者の刻印があります。また町家の屋根には、恵比寿さんや鍾馗さんなど、招福や厄除けの様々な意匠が施されています。

■町内の見どころ

●鴨都波神社と「すすきちょうちん」



積羽八重事代主命・下照姫命を主祭神とし、鴨氏によって祀られた御所まちの氏神で、明神大社の一つに数えられます。「鴨の宮」の名で親しまれ、夏と秋の祭礼には、町内各所から30～40本もの「ススキ提灯」が奉納されます。この行事は平成12年に奈良県の無形民俗文化財に指定されました。

●吉祥草寺と「茅原のとんど」



修験道の開祖・役行者（役小角）誕生の地。毎年1月14日に行われる「茅原のとんど」（国の選択無形民俗文化財）は、大和地方に数多い「とんど祭り」の中でも最大規模です。

●柳田川と桜並木

この川は、葛城川に注ぐ支流です。御所まちのあたりで天井川となる堤防から見下ろす町並みは、情緒に満ちています。水辺の遊歩道を歩けば、鴨や水鳥が放たれ、桜並木のトンネルなど四季折々の風情が楽しめます。



↓商業が栄え、商家が軒を連ねる西御所

西御所は、環濠が取り巻く江戸時代の商都です。木綿の大和緋、菜種油、葉種、運送、醸造、旅籠など、様々な商売がさかえました。今も当時の面影のままに、重厚な町家が軒を連ねています。



霜月祭（そうげつさい）



毎年11月第2日曜日に開催されるこの催しは、由緒ある町家の公開をはじめ、地元の人たちの個性あふれる芸術作品の展示・名物「行者蕎麦」の手打ち実演販売・「おづぬ餅」・「霜月しもつき茶会」・「行者おねり」など、見どころや食べどころが満載です。

ごせまち 御所まち

日本風景街道



白壁／黒壁
うだつ
煙出し
虫籠窓
格子

お寺を中心に、町が造られた東御所↓

東御所は、円照寺を中心とした「寺内町」として整備されました。南のはずれに桑山元晴の陣屋があったとされ、今も「代官町」という町名が残っています。

■円照寺

「大和五ヶ所御坊」の一つに数えられる円照寺は、天文年間（1532年～1555年）桑山源吾（釋笑雲）によって浄得寺として開基されました。後に、慶長19（1614）年本山准如上人より懸所坊舎を命ぜられ、円照寺と改称されました。また天保初め（1830年～）には大々的な本堂の建て替えが行われました。境内は、本堂をはじめ、対面所、正門、鐘楼、太鼓楼が配置され、浄土真宗御坊寺の典型的な伽藍配置となっています。また境内には、平蔵16年の本堂大屋根修理の際に下ろされた修復前の3mを超える「鬼瓦」が展示されています。



■大和緋



「大和がすり」は、御所まち在住の偉人「浅田松堂」（1711～1777年）によって考案されました。近世から明治期をピークに昭和30年代まで、御所の主力産業として栄えました。模様の大きなものが庶民の普段使いの品、模様の細かいものが上物として珍重されました。

■町角のかみさま

御所まちでは、今でも地区ごとに灯籠や祠を祀り、先祖から受け継がれてきたかみさまを大切に守っています。



■御所柿

「ごしょがき」は江戸時代以前に日本で最初の「完全甘柿」として御所に生まれました。柿の極上品として、皇室に献上された由緒ある柿ですが、栽培が難しく収穫量も安定しなため、次第に生産されなくなりました。最近、「幻の柿」とまで言われる「ごしょがき」を市民の手で復活、振興させようという取り組みが始まっています。



■検地絵図

寛保2（1742）年の検地は、御所藩領→幕府領→郡山藩領→幕府領と変遷した御所まち近辺のみに行われたもので、この地方としては、江戸時代の最後の検地でした。絵図には、通り名・道幅・持ち主・面積・番号等が書かれています。現状の柳田川は南に移っていますが、道幅・背割り下水・環濠・寺院の場所等は、ほぼ現状通りです。この検地は、幕府から派遣された8人の検地役人の監督のもとで行われましたが、御所を担当した2人のうち、高山吉太夫は客死し、その墓は円照寺にあります。

御所まちへのアクセス



■散策される皆様へお願い。
○散策にあたり、敷地内の無断立ち入りや、むやみにのぞき込んだりしないで下さい。
○歩行中の安全には十分、お気をつけ下さい。
○煙草のポイ捨てやゴミの投げ捨てはしないで下さい。

★「ごせまち」のご案内を
ガイドサポーター致します
要予約
ボランティアガイドスタッフ
〒639-2206 奈良県御所市竹田前60-21
（御所市商工会館内）
☎：0745-65-1201 ㊟：0745-65-1834
[e-mail] sou@gosemati.net
[URL] http://www.gosemati.net/

■企画・発行
「ネットワーク」の力でまちを創る。 創
ごせまちネットワーク・創

御所市観光協会 TEL：0745-62-3346